

4 産業

(1) 産業構造

三島の産業構造を就業者数で見ると、飲食店、宿泊業を中心とする第3次産業の就業者が最も多く、平成17年で総就業者数2,307人のうち1,027人で44.5%を占めている。

第3次産業に次いで、第1次産業が1,013人、43.9%を占め、中でも漁業就業者は1,010人でその比率は極めて高く、農業就業者は佐久島の3人のみである。

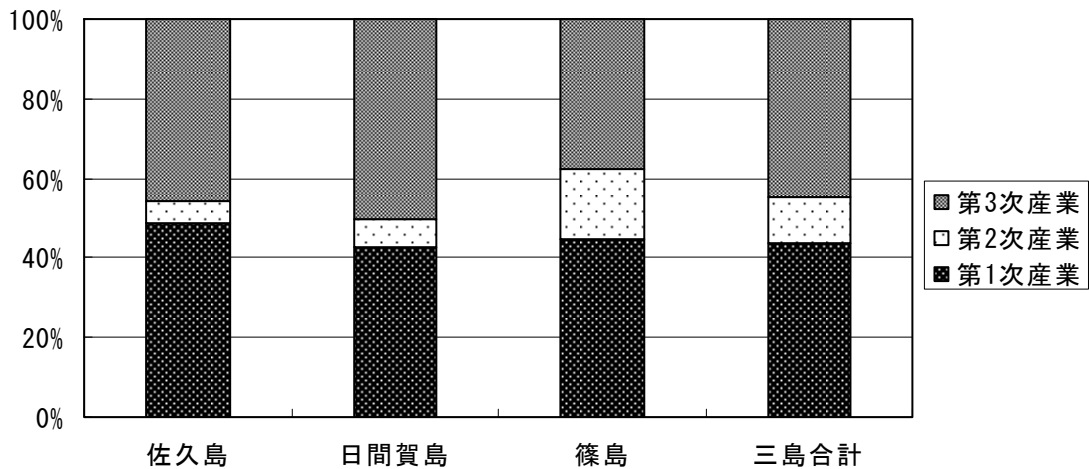
これに対して第2次産業の就業者は266人で11.5%にすぎず、昭和50年において616人(22.6%)であったことに比べ大きく減少している。(表11、参考資料4)

島別にみても、佐久島では、第1次産業就業者が71人(49.0%)と平成12年と比較し8人増加しており、第3次産業就業者数は66人(45.5%)で平成12年と比較し10人減少しており就業者数が逆転した。

日間賀島では、漁業就業者が平成12年と比較して41人減少したかわりに、製造業、サービス業をあわせて38人増加しており、第二次・第三次産業へのシフトが見られる。

篠島では、塩干業などの水産加工業に従事するものが多いことから第2次産業就業者が171人(17.4%)と三島の中では最も多い。

表11 産業分類別就業者数構成比(平成17年)



資料:平成17年国勢調査



【日間賀島漁船漁業用倉庫】

平成9年度の沿岸漁業活性化構造改善事業で整備された。

(2) 主な産業

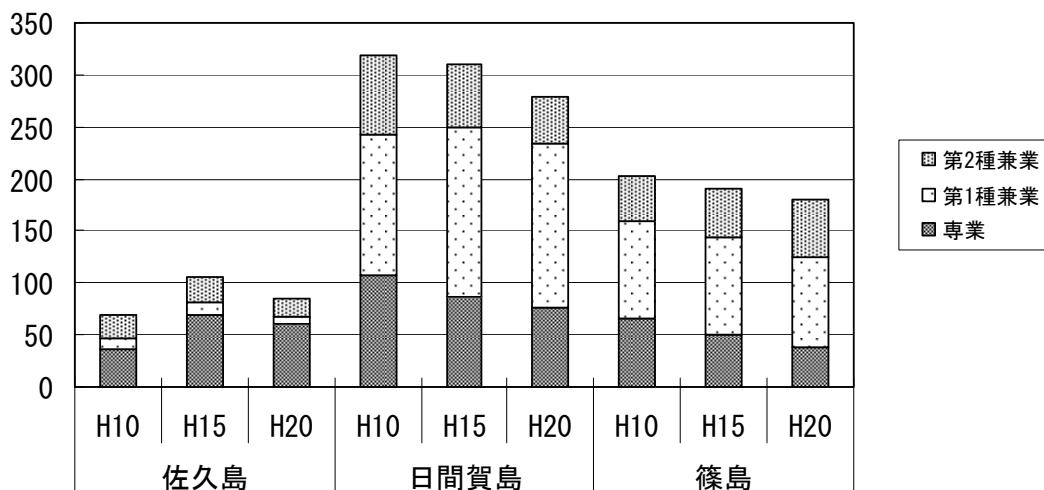
ア 水産業

島の基幹産業である水産業は、伊勢湾、三河湾及び渥美外海を主漁場とした船びき網、刺網、はえ縄等の漁船漁業と、ノリ等の養殖業及びアサリ等の採貝が中心である。

三島の個人経営体数は、平成 20 年漁業センサスでは 545 経営体で、平成 10 年と比べると 47 経営体 (7.9%) 減少している。専業・兼業 8 別にみると、専業は 175 経営体で平成 10 年と比べ 35 経営体 (16.7%)、第 1 種及び第 2 種兼業は、370 経営体で 12 経営体 (3.1%) といずれも減少している。専業を島別にみると、佐久島は 60 経営体、日間賀島は 77 経営体、篠島は 38 経営体となっており、平成 10 年と比べると佐久島は 24 経営体 (66.7%) の増加、日間賀島は 31 経営体 (28.7%) の減少、篠島は 28 経営体 (42.4%) の減少となっている。(表 12)

表 12 漁業経営体数の推移

(単位：戸)



資料：漁業センサス

8 専業、第1種兼業、第2種兼業

専業は過去 1 年間の収入が自営漁業からのみの世帯、第 1 種兼業は過去 1 年間の収入が自営漁業以外の仕事からもあり、かつ、自営漁業からの収入がそれ以外の仕事からの収入の合計よりも大きかった世帯、第 2 種兼業は過去 1 年間の収入が自営漁業以外の仕事からもあり、かつ、自営漁業以外の仕事からの収入の合計が自営漁業からの収入よりも大きかった世帯をいう。

9 漁業経営体

過去 1 年間に利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所をいう。ただし、過去 1 年間における漁業の海上従事日数が 30 日未満の個人経営体は除く。

漁業形態は、日間賀島においては、シラス、イカナゴ等を対象とした船びき網が主体の漁船漁業及びノリ等の養殖業が行われており、島内消費や加工原魚を除き、漁獲物の多くが本土側片名の水産物地方卸売市場へ陸揚げされている。篠島においては、シラス、イカナゴ等を対象とした船びき網が主体の漁船漁業とノリ等の養殖業が行われており、漁獲物の大半が島に陸揚げされ加工等されている。（表 13）

一方、佐久島では、住民のほとんどがアサリ漁に従事し大きな収入源になっているほか、新たな試みとして貝紫染 10 の事業が本格的に始まった。この貝紫染は、佐久島沿岸に生息するアキ貝科のアカニシやイボニシから採れる分泌腺を使用するもので、島の主婦たちを中心に構成される貝紫染グループは、国・県主催のイベントや展覧会に出品したり、他地域の伝統染色や手織りの研修や交流を通して、“カルチャー漁業”という新たな産業起こしに取り組んでいる。

【貝紫染体験教室 11 の風景】

型紙を使って図柄を染めるので誰でも楽しめ、染めたハンカチやランチョンマットはお土産になる。



【貝紫染めのランチョンマット】

紫外線により発色した色は希少で美しい。

10 貝紫染

紀元前 14 世紀頃、ヨーロッパのフェニキア（現在のレバノン）が起源。

エジプトのクレオパトラやローマ皇帝シーザーも憧れた貴族のファッションとして有名であったが、時代の流れから化学染料の普及により姿を消し、現在では幻となっている。

貝紫はそのあざやかな紫色や色落ちしないことから珍重されていた伝統的な染色法。

11 貝紫染体験教室

一週間前に申込みをすれば体験できる。所要時間 90 分程度。1 人 2,000 円（6 人以上は 1 人 1,500 円）。会場は佐久島弁天サロン。

(7) 漁獲量

漁獲量は、平成 21 年には三島で 5,725 トン、24 億 72 百万円であった。

島別では、日間賀島が 1,380 トン、5 億 1 百万円、篠島が 4,168 トン、18 億 48 百万円で、この 2 島で漁獲量の 96%以上を占め、経営規模の小さな佐久島は 177 トン、1 億 23 百万円と一桁少ない漁獲に留まっている。(表 13)

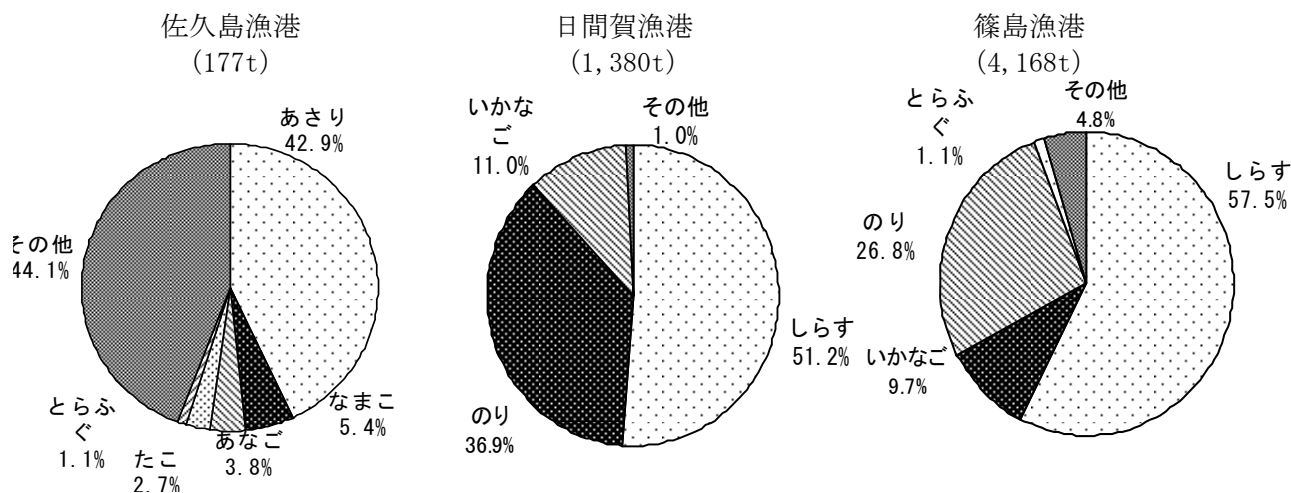
表 13 漁獲金額・漁獲量(属地集計)

単位：t(漁獲量)、百万円(漁獲高)

	漁獲量			漁獲高		
	海面漁業	海面養殖業	計	海面漁業	海面養殖業	計
佐久島	177	0	177	123	0	123
日間賀島	871	509	1,380	361	140	501
篠島	3,020	1,148	4,168	1,574	274	1,848
合計	4,068	1,657	5,725	2,058	414	2,472

資料：県水産課調べ(平成 21 年)

表 14 魚種別水揚量(属地集計)



注：1%未満の魚種はその他に計上

資料：県水産課調べ(平成 21 年)

(イ) 漁船・漁港等

漁船は、小型動力船が主体で、三島の登録漁船数(平成 21 年 12 月末現在)1,090 隻中 74.8%が 5 トン未満である。(表 15)

漁船のほとんどが FRP 製¹²であり、廃船となった船の処理は、産業廃棄物処理業者に依頼し処分することとなるが、処理費用が高く負担が大きなことから、低廉な廃船処理が求められている。

漁港区分は、篠島漁港が第 2 種県管理漁港¹³、佐久島漁港が第 2 種市管理漁港、日間賀漁港が第 2 種町管理漁港である。これらの漁港では、島の主力産業である水産業の基盤強化のため、漁港施設の整備、拡充及び水産関連施設の整備が順次進められている。(表 16)

また、地先漁場造成のため、築いそや魚礁の設置が行われているが、主漁場である三河湾は

閉鎖性水域であるため、赤潮や貧酸素水塊が発生しやすくなっており、湾流入汚濁負荷の削減と海域の環境改善が重要な課題となっている。

表 15 登録漁船の現況

単位：隻

	佐久島	日間賀島	篠島	三島合計
5t 以上	0	116	159	275
5t 未満	119	389	307	815
計	119	505	466	1,090

資料：県水産課調べ（平成 21 年 12 月末現在）

表 16 漁港施設及び水産関連施設の現況

区分	種類		佐久島漁港 (第 2 種市管理)	日間賀漁港 (第 2 種町管理)	篠島漁港 (第 2 種県管理)
	基本施設	外かく施設	防波堤(m)	1,540	1,642
護岸(m)			3,758	5,399	1,511
けい留施設		物揚場(m)	830	2,816	2,513
		船揚場(m)	137	116	203
水域施設		泊地(m ²)	35,000	64,993	77,900
機能施設	臨港道路(m)		716	4,516	2,734
	漁港施設用地(m ²)		13,180	60,510	104,335
	荷捌所(m ²)		—	1 か所 200	2 か所 3,392
	製氷施設(トン)		—	1 か所 20	1 か所 39
	冷凍施設(トン)		—	—	1 か所 10
	冷蔵施設(トン)		—	1 か所 311	1 か所 165
	貯氷施設(トン)		—	1 か所 192	1 か所 10
給油施設(最大貯油能力 kl)		1 か所 20	12 か所 465	8 か所 965	

資料：漁港台帳(平成 23 年 3 月末現在)、港勢調査(平成 21 年 12 月末現在)



【日間賀漁港】

漁港修築事業として堤防の整備が行われた。



【篠島漁協水産物荷捌き施設】

養殖ノリの品質管理や共同出荷を行うための施設で平成 14 年度に整備された。

12 FRP 製

Fiber Reinforced Plastic の略。ガラス繊維を混ぜ補強したプラスチックでできたもの。軽くて丈夫な特性があり様々な産業用部品や遊具などに利用されている。

13 第 2 種県管理漁港、第 2 種町管理漁港

第 2 種漁港とは、その利用範囲が第 1 種（地元の漁業を主とするもの）よりも広く、第 3 種（全国的なもの）に属さないものを言い、県（市町）管理とは当該漁港管理者が県（市町）であることを指す。

(ウ) 漁業後継者問題

漁場環境の悪化や漁業資源の減少、不安定な所得、厳しい労働条件等から生じている漁業後継者問題は、三島共通の課題であるが、佐久島と日間賀島、篠島ではいくらか実情が異なる。

過去5年間の新規漁業就業者について見ると、佐久島ではわずか2名であり、担い手不足が深刻であるのに対し、日間賀島と篠島では、毎年2名～9名と安定して確保されている。(表17)

しかし、三島の個人経営体数は、平成10年漁業センサスでは592経営体であったが、平成20年の同調査では545経営体まで減少し、専門の割合も35.5%から32.1%まで低下しており、島の基幹産業である漁業にとって極めて深刻な状況となっている。

こうしたことから、島の漁業を支えて行くためには島内の出身者にこだわらず、島外から定住者を積極的に受け入れ、全く初めての人でも漁業に取り組めるよう熟練漁師による指導や、船などの設備が整えられるよう支援するなどの取り組みが必要となっている。

また、各島とも新規漁業者が安定した水揚げ・収入を得て、魅力ある漁業として就業できる環境整備に努める必要がある。そうした中、日間賀島と篠島では若手漁業者が中心となって、トラフグ、アワビ、ミルクイ¹⁴、ナマコ等の、また、佐久島ではクロダイ、ナマコ等の栽培漁業に意欲的に取り組んでおり、その活動が期待される。

表17 新規漁業就業者の推移 単位：人

	H18	H19	H20	H21	H22	計
佐久島	2	0	0	0	0	2
日間賀島	6	4	4	2	4	20
篠島	3	2	6	2	9	22
三島合計	11	6	10	4	13	44

資料：県水産課調べ

※学卒、Uターン含む

14 ミルクイ

ミルクイの正式名称

イ 農業

愛知三島における農業はごくわずかである。（表 18）

日間賀島においては、昭和 40 年代後半～50 年代前半にかけて約 15ha の農地造成が行われ、順次オリーブ、ふき、梅等の栽培が試みられたが、害虫の発生、潮風、土質、浅い耕土、農業用水の整備困難などにより、いずれの作目も定着に至らず、営農意欲の衰退と従事者の高齢化などから現在では農家は皆無となり、農地は家庭菜園程度にわずかに耕作されているに過ぎず、多くは耕作放棄地となっている。

篠島においても同様で、畑が 8ha ほどあるものの農家は皆無となり、畑の一部は家庭菜園として使われているが、多くは山林化している。

佐久島においては、昭和 30 年代に樹園地が造成され、温州ミカンの栽培によって農家所得を支えてきたが、高齢化と後継者不足により現在では出荷はされていない。なお、2005 年の農林業センサスでは、81a の経営耕地があるものの販売農家数はなく、ほとんどが自給的農家により耕作されている。また、遊休農地対策として、離島では全国初となる宿泊滞在型農業体験施設（クラインガルテン）を平成 24 年春の供用開始に向けて工事を進めている。

表 18 耕地面積及び農業経営体数等

単位：ha（面積）

島名	総面積 A	農振面積 B	耕地面積				耕地化率 B/A	農業経営体数	農協			森林面積			
			総数	田	畑	樹園地			うち家族経営	支部・所	組合員数	総数	うち人工林	民有林	うち人工林
佐久島	181	0	1	0	1	0	0.6%	0	0	1	130	56	1	56	1
日間賀島	77	0	19	0	19	0	24.7%	0	0	1	411	3	1	3	1
篠島	93	0	8	0	8	0	8.6%	0	0	0	5	23	9	23	9
三島合計	351	0	28	0	28	0	8.0%	0	0	2	546	82	11	82	11

資料：西尾市、南知多町調べ。農振面積、耕地面積（耕作放棄地を含む）、農協数は平成 23 年 3 月 31 日現在。
農業経営体数、森林面積は農林業センサス（22 年 2 月 1 日現在）



【佐久島クラインガルテン（仮称）】

佐久島に滞在しながら農業が体験できる市民農園のイメージパース。

70㎡の農地と宿泊施設であるラウベを 10 区画整備する。

ウ 商工業等

製造業は、水産加工業が主で、シラス、イカナゴの塩干業等が営まれているが、小規模な事業所が多く、原材料の漁獲量により経営が左右されやすい。

商業は、日間賀島及び篠島では土産物や日用品雑貨を売る卸売・小売業に 278 人就業しているが、佐久島では、日用雑貨の販売にとどまっており、就業者も 15 人と少ない。（表 19）

表 19 製造業、卸売・小売業の状況

	製造業		卸売・小売業	
	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数
佐久島	1	2	6	15
日間賀島	7	69	40	156
篠島	17	187	45	122
合計	25	258	91	293

資料：経済センサス基礎調査（平成 21 年度）



【篠島イカナゴ天日干し】

日間賀島や篠島ではイカナゴ、シラス、タコ等が天日で干されている。

【篠島漁港の水産加工場】

篠島漁港の埋立地にはシラス、イカナゴ等の加工場が立地している。



エ 観光・レクリエーション

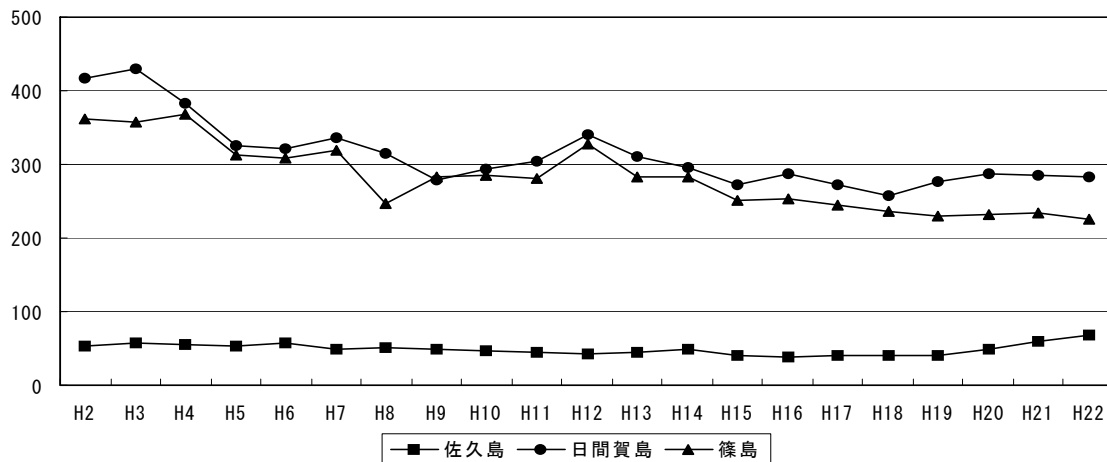
三島は、三河湾国定公園の島しょ景観の中心にあつて、自然環境に恵まれており、平成 22 年度には、自然や海の幸を楽しむ人、海水浴客、釣り客など約 57 万 9 千人の観光客が訪れ、観光は水産業と並ぶ主力産業となっている。

島別の観光客数は、日間賀島が約 28 万 4 千人と最も多く、以下、篠島約 22 万 6 千人、佐久島約 6 万 9 千人である。（表 20、参考資料 5）

観光客は、夏季に集中しがちで季節的変動が大きなことから、日間賀島、篠島では、通年型観光への転換の取り組みとして、島内環境整備と観光資源・施設の充実を図り、春のお遍路さん、春から秋にかけて海浜レジャー・スポーツや体験漁業、夏の海水浴や体験漁業、夏場の鱧料理、冬場のフグ料理、通年の釣りや離島生活体験など、自然の恵みを生かした四季型の観光地を目指した努力が続けられている。これらのうち、体験漁業は、日間賀島では観光協会が、篠島では民宿組合のグループが中心となって、自然と漁業を一体とした観光施策として、漁業を体験学習プログラムに組み込んだ「体験型観光」を目指したもので、多様なプログラムが用意され、「自然体験漁業」による集客に力を入れている。フグ料理は、旅館・民宿の多くがフグ調理師免許を取得し、値打ちなフグ料理を提供することにより、これまで冬場に少なかった観光客の獲得に大きな成果を上げている。

表 20 観光客数の推移（平成 2 年～平成 22 年）

単位：千人



資料：西尾市、南知多町調べ

日間賀島では、縄文・弥生時代の遺跡、6～7 世紀頃の古墳群、新生代の化石などが多数発見され、歴史の深い島であるとともに、島に伝わる「タコと阿弥陀如来の伝説¹⁵⁾」と島の付近でタコが豊富に捕れることから、タコ料理を始めタコキャラクター商品の開発・販売やタコのモニュメントの設置など「タコの島」として島おこしを図ってきたが、これに稚魚の放流や魚礁の設置などによって漁獲量の増えたフグが名物・特産に加わり、「タコとフグの島」として PR に努めている。また、体験漁業プログラムを豊富に用意し、さらに漁獲高の多い白ミル貝やフグ、シラスを使った新たな料理や低カロリーでミネラル豊富な健康料理の取り組みに加え、

18 年度よりリラクゼーションプログラムやイルカ介在療法などを取り入れ、「疲れる旅から元気になる旅」をテーマに滞在型観光の実現を目指した取り組みが行なわれている。

篠島は、古代より伊勢神宮へ鯛を奉納する「おんべ鯛 16」の島として著名であり、近年は「タイとフグの島」として PR に力を入れている。島内には、「帝井 17」、「清正の枕石 18」など多くの史跡や万葉の丘・歌碑公園があるほか、「日本の夕陽百選」に選ばれるほど夕陽がきれいな島であるなど、古くから風光明媚な島として「東海の松島」とうたわれてきた。平成 8 年には、漁協青年部が中心となって「海の釣堀・篠島つり天国」を開設し、タイやハマチ、アジなど大小様々な魚が放流されており、観光客の人気スポットの一つとなっている。

また、この地方では珍しい薬草のアシタバを用いた料理を手掛けたり、平成 10 年からタイの島をアピールしようと、800 年以上続くといわれる島の伝統行事である「おんべ鯛」の伊勢神宮への奉納行事を昔ながらの唐櫃に入れ漁船で運ぶ古式に復活したりするなど、島の魅力づくりに取り組んでおり、17 年度より、新たな観光資源として、島の周囲に 100 年ほど前に祀られた 88 体の石仏をお参りする「山弘法」巡りの再整備を行い、「島弘法 19」と改称し復活させる取り組みも進めている。

そのほか、両島には、「知多四国八十八ヶ所霊場めぐり 20」の札所がある。日間賀島には 37 番札所、篠島には、38 番、39 番札所と番外札所の寺院があり、全国から信仰と観光を兼ねた人々が四季を通じて訪れている。

15 タコと阿弥陀如来の伝説

その昔、日間賀島と佐久島の間にあった島が地震により陥没した。その後、その島にあった寺の阿弥陀如来像が漁師の網に掛かり、如来像を守るようにタコが絡みついてきた。そのことが始まりといわれる「タコ阿弥陀如来」が安楽寺にまつられている。

16 おんべ鯛

伊勢神宮の三大祭に供えられる神饌（しんせん：神に供える飲食物）のひとつで、鯛の塩漬けを海水で洗ってから天日干しにしたもの

17 帝井（みかどい）

南朝の後醍醐天皇の皇子、義良親王（後の後村上天皇）が島に漂着された際、飲料水を親王にさしあげるために掘られた井戸。また、この井戸水は、愛知用水通水時まで島民の大切な飲料水であった。

18 清正の枕石

名古屋城を築城の際、石垣を担当した加藤清正が篠島・南風ヶ崎より石を切り出したが、どうしても運べなかった大きな石を「清正の枕石」と呼んでいる。

19 「島弘法」巡り

明治時代末に海難事故により遭難死した 10 名の漁師の慰霊と海上安全、大漁などを願って、島内の海を見渡す道沿いに祀られた 88 体の石仏をお参りするもの。昭和 40 年代までは弘法命日に島民が弁当を持って弘法参りをするなど、手軽な春の行事として定着していた。

20 知多四国八十八ヶ所霊場めぐり

弘法大師（空海）にちなむ四国八十八ヶ所霊場になぞらえたものであり、その開創は江戸時代（文政年間）に遡る。

佐久島には、観光レクリエーション施設として、生活環境保全林の散策道、昭和 61 年度に整備された海釣りセンターがあり、平成 13 年 4 月から無料開放となっている。平成 10 年度には漁港海岸環境整備事業により海岸環境の保全と併せて海水浴場も整備され、各種イベントの会場としても活用されている。

集客のための行事として、平成 12 年度に「島を美しくつくる会」がファミリー向けに試行したイベント「ネイチャーハイク 2000in 佐久島」を契機に、平成 13 年度から「佐久島歩け歩け海原三里」がスタートし、県内外から多くの参加者が集う一大イベントに定着しつつある。

また、「三河湾海のページェント」として、毎年春まつり、夏まつりが開催されている。

平成 8 年度に情報発信を目的としてスタートした現代アートによる島おこしは、平成 13 年度にアーティストと島民がコラボレーション（協働）により取り組むプロジェクト「三河・佐久島アートプラン 21」へと発展し、「祭りとアートに出会う島」をテーマに様々なイベントや展覧会等が開催され、一般的な観光地と一線を画した文化的な島づくりを目指した活動が続けられている。こうした活動の核となっている組織が島民で構成する「島を美しくつくる会」であり、島内の環境保全整備や名物料理・特産品の開発などに積極的に取り組んでいる。特に、古きよき時代の日本の漁村風景である黒壁の家並みや里山、また、それらを保全しようとする人々の営みが評価され、平成 21 年 1 月「にほんの里 100 選」に選ばれた。近年では、自然豊かな佐久島がテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などに取り上げられ、若い女性やカップルが島内を散策する姿が見られるようになっている。



【佐久島歩け歩け海原三里】

黒壁の里や山海と歴史を探訪するハイキングは毎年大人気。
ゴール地点ではカヌーの試乗、貝殻や小石の工作などお楽しみがいっぱい。

また、平成 22 年度には、アンドロイド携帯専用アプリ「ミッション in 佐久島」の開発が行われ、平成 23 年 4 月から供用が開始されている。



【「ミッション in 佐久島」のメニュー画面】

愛知三島における観光客の受入体制としては、平成 22 年 3 月末で旅館・ホテルが 30 軒、民宿が 87 軒あり、収容能力は 1 日約 4,600 人となっている。(表 21、参考資料 5)

民宿は、昭和 49 年頃から急速に増加したが、近年は、減少傾向にある。

表 21 宿泊施設等の状況

平成 23 年 3 月 31 日現在

	宿泊能力 (上段：旅館・ホテル、下段：民宿)		主な観光資源
	軒数	宿泊収容人数	
佐久島	2	60	景観、味覚、海水浴、海釣り、潮干狩り、島内散策道、八日講祭(1月8日)、海釣りセンター、弁天サロン、アートイベント&展覧会(祭りとアートに出会う島 佐久島体験)
	8	275	
日間賀島	16	1,100	景観、味覚、海水浴、海釣り、潮干狩り、知多四国八十八ヶ所巡り、自然体験漁業(4~10月)、キッズアドベンチャー(夏季)、ぎおん祭り・ほうろく流し(7月第3土曜日)、タコ祭り(8月12日)、日間賀島資料館、イルカ介在療法、リラクゼーションプログラム
	55	1,800	
篠島	12	627	景観、味覚、海水浴、海釣り、潮干狩り、帝井・清正の枕石などの旧跡、歌碑公園、知多四国八十八ヶ所巡り、大名行列(1月3・4日)、篠島つり天国、ぎおん祭り・野島祭り(7月第2土・日)、おんべ鯛奉納祭(10月12日)、島弘法巡り
	24	768	
三島合計	30	1,787	
	87	2,843	

資料：西尾市、南知多町調べ



【日間賀島のタコのモニュメント】

「タコの島」のイメージ定着のため島の東西に設置され、島を訪れる観光客を歓迎している。

5 生活環境

(1) 水道

水道については、佐久島では、昭和 35 年から送水船による簡易水道事業が開始され、日間賀島、篠島においては、昭和 37 年に離島簡易水道整備事業による海底送水管（口径 75mm）が完成し、師崎を經由して愛知用水からの送水が始まった。

その後、生活水準の向上、ノリ養殖等の進展、観光客の増大等に伴う水需要の増加に対処するため、昭和 47 年 8 月に、南知多町及び一色町により愛知三島水道企業団が設立され、昭和 48 年には 150mm の海底送水管が日間賀島経由で、篠島、佐久島にそれぞれ布設され、三島への送水が行われるようになった。

しかし、施設の老朽化により送水量が低下し慢性的な水不足の状態となったため、平成 9 年度から平成 12 年度までの 4 か年で、師崎～篠島間の海底送水管の布設替等を行った。現在では、南知多町師崎から海底送水管が篠島へ口径 200mm が 1 本、日間賀島へ口径 150mm が 2 本、佐久島へは日間賀島経由で口径 150mm が 1 本布設送水されており、水道普及率は 100% となっている。また平成 22 年度に師崎～日間賀島間の海底管（南ルート、口径 150 mm）の布設替を行った。（表 22）

昭和 47 年より愛知三島水道企業団により運営してきた三島の水道事業を平成 13 年度に南知多町水道事業へ統合した。離島という特殊な条件下では、海底送水管を始め水道施設の管理運営などに多額の経費を要することから、水道料金の統一は困難を極めた。しかし、給水区域内の安全で平等な供給を目指し、平成 17 年度の段階的な値下げを経て、平成 20 年度から水道料金が統一された。

表 22 水道事業の現況

平成 23 年 3 月 31 日現在

水道事業者	給水区域			給水人口	水道普及率
南知多町	日間賀島、篠島、佐久島			4,302 人	100%
年間給水量 (22 年度)	1 日当たり給水量			稼働率 (日最大/給水能力)	一般家庭の 1 か月 平均使用量
	計画	最大	平均		
673 千 m ³	4,300 m ³	2,800 m ³	1,843 m ³	65.1%	21.2 m ³ /月

資料：南知多町調べ

(2) 電気

電気については、昭和 22 年に南知多町片名から 5k v の海底送電ケーブルで日間賀島を經由し、篠島、佐久島に送電が開始された。以降、生活水準の向上、観光客の増大などによる電力需要の増加に応えるため、海底送電ケーブルの増設がなされ、現在では、日間賀島へは本土から 33k v で供給され、日間賀島内及び篠島、佐久島へは、6k v に下げて日間賀島から送電されている。一般受電化率は三島ともに 100% となっている。

(3) ごみ処理

可燃ごみについては、三島とも島内に設置されたバッチ式焼却炉等で町が焼却処理してきたが、ダイオキシン類対策特別措置法の定める環境基準をクリアできないことから、平成 14 年 10 月以降、佐久島は西尾幡豆広域連合（現：西尾市）の焼却施設へ、日間賀島と篠島では知多南部衛生組合が収集し、それぞれ本土側へ運搬し処理しているが、運搬費が高額であり財政負担が大きい。

資源ごみについては、容器リサイクル法の施行に伴い、ビン、カン、新聞紙等について、佐久島では月 1 回、日間賀島、篠島では月 2 回収集し、本土へ搬出して資源化処理を行っている。

不燃性のごみ処理については、佐久島には平成元年度に 2,660m³、日間賀島には平成 5 年度に 26,625m³、篠島には昭和 57 年度に 8,316m³（平成 4 年度改修後容量）の埋立処分地が整備されているが、佐久島・篠島においては残余容量が少なくなっている。

粗大ごみの処理については、佐久島では毎月 1 回市が、日間賀島と篠島では毎月 1 回知多南部衛生組合が収集して、本土へ搬出し、適正な処理を行っている。

また、三島とも観光地としての良好な環境づくりを進めるため、コミュニティ活動等による島内美化運動が実施されている。



【知多南部クリーンセンター】

ダイオキシン規制に伴い日間賀島及び篠島のごみは島外へ搬出されここで処理されている。

(4) し尿処理等

し尿処理については、三島とも早くから単独処理浄化槽が普及しており、平成 23 年 4 月 1 日現在の水洗化率²¹は、佐久島 88.6%、日間賀島 98.0%、篠島 83.7%となっている。

日間賀島及び篠島では、町の委託を受けた業者が収集運搬し知多南部衛生センターで処理している。佐久島では、本土の処理業者が汲取車を搬入し処理に当たっている。

また、日間賀島と篠島では、旅館・民宿等からの生活排水が海域に流れ込んでいることから、日間賀島では、平成 8 年度より漁業集落環境整備事業に着手、平成 15 年 8 月より供用が開始され、生活環境の改善に成果を上げている。篠島では、地域の実情に応じ、集合処理施設や個別処理である合併処理浄化槽の設置促進を図り、生活排水の対策を進めている。

21 水洗化率

水洗化率＝水洗化人口÷計画処理区域内人口

6 医療・福祉

(1) 保健・医療

佐久島においては、市営診療所（西尾市佐久島診療所）が、国及び県の助成を受けて運営されており、県から派遣された自治医科大学の卒業医が常駐している。なお、平成 11 年 8 月からへき地医療支援システムを導入し、へき地医療拠点病院である愛知県がんセンター愛知病院から専門医による画像診断などの技術支援を含めた診療上の助言・指導を受けることが可能となっている。また、平成 14 年に移転新築した診療所に隣接して、平成 16 年には医師住宅を建設し医療体制の整備を図っている。しかし、歯科については設置されておらず、今後の課題となっている。（表 23）

日間賀島においては、平成 12 年に新築された町所有の診療所（日間賀島診療所）で民間医師が週 4 回診療を行っている。また、歯科は島に常駐の民間医師が開業している。

篠島においては、町所有の診療所で、知多厚生病院附属篠島診療所が開設されており、週 5 回の診療が行われている。また、歯科も民間医師により週 1 回開業されている。

急患への対応については、三島とも、救急患者の輸送に海上タクシーや漁船を使用しており、佐久島では市、日間賀島、篠島では知多南部消防組合により、搬送費に対し助成が行われ、患者の家族の負担軽減が図られている。また、重症の救急患者に対しては、ドクターヘリ事業が平成 13 年度から愛知医科大学病院により実施されており、県内 22 病院への搬送が可能となっている。

表 23 医療施設等の現況

平成 23 年 4 月 1 日現在

島名	医療施設			医療従事者						
	診療所	病床数	歯科診療所	医師	歯科医師	看護師	歯科衛生士	保健師	助産師	搬送施設等
佐久島	1			1		1				
日間賀島	1		1	1	1	1				
篠島	1		1	1	1	3				
合計	3	0	2	3	2	5	0	0	0	0

資料：西尾市、南知多町調べ

(2) 高齢者福祉

三島の高齢者人口（65歳以上）の割合は、日間賀島 26.1%、篠島 25.8%に対し、佐久島は 48.3%と著しく高い。また、高齢者人口のうちひとり暮らし高齢者の割合も、日間賀島 8.8%、篠島 9.6%に対し、佐久島は 28.8%と高くなっている。三島のひとり暮らし高齢者の数は、高齢化の進行にあわせて増加し、平成 17 年には、平成 12 年の 141 人から 16 人増え、157 人となっている。（表 24、参考資料 2）

表 24 65 歳以上のみの世帯数

	世帯数	65 歳以上のみの世帯数（再掲）	
		うち一人暮らし	
佐久島	139	70	40
日間賀島	639	111	56
篠島	638	131	61
三島合計	1,416	312	157

平成 17 年国勢調査

高齢者福祉対策として、日間賀島及び篠島では、健康で自立した生活に向けた支援として、生きがい活動支援センターを整備して平成 13 年 1 月から生きがい活動支援通所事業（デイサービス）が開始され、入浴や食事、健康チェック、機能回復訓練などの実施により介護予防に努めている。

また、老人憩の家が日間賀島に 2 か所、篠島に 1 か所整備され、健康増進、レクリエーションの場として利用されている。

佐久島では、健康で自立した生活に向けた支援として、給食サービスの実施に加え、平成 12 年度からは開発総合センターを改修し、送迎による生きがい対応型デイサービスを開始し介護予防に努めている。

また、介護保険制度の運用により島へ派遣されるホームヘルパー等への交通費補助が各市町により行われている。

(3) 児童福祉

児童福祉施設として、佐久島には市立へき地保育所が、日間賀島には町立保育所が、篠島には私立保育園がそれぞれ 1 か所ずつ設置されている。佐久島では、平成 12 年度から入園児が無く休所となっていたが、平成 15 年度から再開され、平成 23 年 4 月 1 日現在、3 名が通園している。

【日間賀保育所】

平成 23 年 4 月 1 日現在の入園児は 69 名。



【篠島保育園】

三島では唯一私立の保育園。
平成 23 年 4 月 1 日現在の入園児は 44 名。